

錦秋を知る

秋らしいことはたくさんある。それなのに、この季節は一瞬で過ぎるから、「あー、今年は秋を満喫したなー！」って思えるような思い出は、意外と少ない。今年の秋こそ、全身で、全力で、秋を満喫してみるのだ。

やってきました、

山寺。山の上まで続く立石寺を巡り、石の階段を一段上がるとに視界はどんどん高く、高く。気がつくと、紅葉する山を見下ろすような景色が広がり、静かな感動が胸に押し寄せる。

体を動かしたことで早くなった呼吸を落ち着けるように深呼吸すれば、落ち葉の甘い香りと、澄んだ空気が体を通り抜けていく。

穴場の紅葉スポットがあるのが、隣駅の「面白山高原駅」。

ここは、山道を歩くトレッキングコース沿いに、紅葉と滝の絶景スポットが点在する溪谷。谷間の散策道は、常に水の音が響き、紅葉の中を進む体験を一層特別なものにしてくれる。

紅葉は、静かにその趣に浸る楽しみ方が多いけれど、霞滝や藤花の滝がダイナミックなシーンを形づくる、こんな景色も悪くない。

体もそれなりに疲れが溜まってきたところで、一日の終わりに温泉を目指す。

蔵王温泉はこの時期、紅葉の中にある。紅葉と温泉。今日はここで、贅沢な夜を迎える。

早朝に起きて目指したのは「西蔵王公園展望広場」。

山に囲まれた盆地である山形は、低い層状の雲が発生しやすく、雲海の絶景が生まれる。心ゆくまで眺めたら、昨日とはひと味ちがう。秋の楽しみを探しにいく。

訪れたのは果物狩り。寒暖の差が激しい山形の気候は美味しいフルーツが育つのにぴったりの環境。ということで、ぶどう狩りにチャレンジ。一粒一粒が、感動のおいしさ。フルーツ王国山形、恐るべし。

秋の山形は、「芋煮」文化も根付いているらしい。

山形市内を流れる、最上川水系馬見ヶ崎川は、「芋煮会の聖地」。

郷土の文化でもある「芋煮会」は、里芋と牛肉、こんにやくや野菜などを醤油ベースのスープで煮込んだ「芋煮」という鍋料理を囲むなんとも楽しげな行事。

毎年9月には直径6.5mの大鍋を使った「日本一の芋煮会フェスティバル」というイベントがあるそう。来年は、この日をめがけて山形を訪れるのもアリかもしれない。

帰りに胸に浮かんだ気持ちは寂しさに似ている。

この季節への愛着が大きくなった気もする。

短く過ぎる季節だからこそ、

一瞬色づく、この魅力が愛おしい。

錦秋の山形。

秋こそ「旅」で味わう季節。そんなことを思い出させてくれた。

絶景は、
登った先に

山寺

山寺こと宝珠山立石寺は、「お手軽にパワーをもらえる」タイプとは少し違う、自分の足で登り、登った先の絶景に出会うお寺です。ある意味、芸術の秋であり、スポーツの秋でもある場所。石の階段を一段上がるごとに視界は高くなり、五大堂の舞台から見下ろせば、山々の紅葉を一望する景色が広がります。秋は宝珠山のライトアップもあり、紅葉シーズンは特に人気です。

登山口の「日枝神社」では、水みくじも楽しめます。季節の花が浮かぶ桶におみくじを浸すと、文字がゆっくり浮かび上がる仕掛け。公園には芋煮に使われる巨大鍋「二代目鍋太郎」もあり、日枝神社前の大きなイチョウなど、秋の山寺は見どころが尽きません。さらに、裏山寺(峯の浦)にある「垂水遺跡」も、ひそかなパワースポットとしておすすめです。もちろん魅力は秋だけではなく、赤い仁王門前のもみじは季節を問わず見どころで、春夏は瑞々しい緑、冬は雪をたたえた水墨画のような山肌楽しめます。いつ訪れても、登った分だけ景色と余韻が残る場所です。

〒999-3301 山形県山形市山寺 4456-1

面白山紅葉川溪谷

山寺の隣にあるのが「面白山高原駅」。ここは、紅葉川を歩くトレッキングコース沿いに、紅葉と滝の絶景スポットが点在する溪谷です。谷間の散策路では、紅葉のトンネルを水の音を聞きながら進むことができ、秋の自然を五感で味わいながらトレッキングすることができます。

トレッキングコースへのアクセスもよくて、面白山高原駅を降りてすぐトレッキングコースに入ることができます。大小7つの滝が点在し、それぞれ独特の形や流れが大自然の造形美を感じられるのも、このスポットならではの魅力です。霞滝や藤花の滝など、名前の由来を想像しながら、歩くのも楽しいポイントかもしれません。

〒999-3301 山形県山形市山寺

赤と黄色の
谷間を進む



贅沢な共演

紅葉と温泉

もちろん、蔵王温泉もこの時期は、紅葉に囲まれています。蔵王にも紅葉狩りスポットはたくさん。宮本 輝(みやもとてる)の小説「錦秋」の舞台は、紅葉の蔵王です。

ロープウェイで360度の色付きを楽しむもよし。ドッコ沼で爽やかな水辺と紅葉の共演も楽しむもよし。タイミングが良ければ、山頂の積雪と山麓の紅葉がコラボした風景もみはらしの丘や蔵王中央ロープウェイの鳥兜駅などで拝めるチャンスがあります。

また、地蔵岳の山頂は9月末から温泉街は11月頭まで非常に長い期間紅葉が楽しめます。紅葉に囲まれた蔵王温泉大露天風呂の風情も見逃せません。

蔵王の雲海

この時期、早起きして目指して欲しいのが「西蔵王公園展望広場」。ここで、条件が揃えば見られるという景色...それが雲海です。山に囲まれた盆地である山形は、低い層状の雲が発生しやすく、それを上から見下ろす形で眺めると、なんとも神秘的なんです。秋に発生しやすい雲海は、紅葉だけじゃない秋限定の絶景の一つ。もし遭遇できたら、心ゆくまで眺めてみてください。西蔵王の他、蔵王連峰標高が高い場所からも雲海が楽しめます。蔵王連峰では、宮城側→山形側の滝雲が見れることもあります。百人テラスは雲海の時、満点の星空を見ることだってできます。

〒990-2421 山形県山形市 上桜田

見られたら
ラッキー



Color 04

錦秋を知る

錦秋という言葉をご存知でしょうか？
錦の織物のように、美しい輝きを放つ秋の風景のことを指します。
山形の秋は、この錦秋という言葉にふさわしいような、美しいシーンに溢れています。
そして、紅葉はもちろん、秋の実りを収穫し味わう、そんな食も魅力の一つ。
魅力あふれる山形の秋を知り、楽しんでください。

YAMAGATA CITY
10 DAYS
STORIES

果物狩り

寒暖の差が激しい山形の気候は美味しいフルーツが育つのにぴったりな環境。

ということで、秋の山形には、ぶどう、りんご、ラ・フランスなど美味しいフルーツがたくさん。

電話やネットで予約を受け付けている農園さんも多いので、ぜひ予約して感動のおいしさをぜひ味わってみてください。

特にブドウは市内西部の本沢地区での生産が盛んです。市内西部は東側と比較して日照時間が長く、生産に適していると言われています。

フルーツの季節



芋煮会

蔵王山系の水源である「馬見ヶ崎川」は、芋煮の聖地と言われています。ここでは毎年「日本一の芋煮会フェスティバル」というイベントが開催されます。直径6.5mの巨大な鍋でバックホーを使って作った芋煮を振る舞うこのイベントは、なんとその提供数の多さがギネスブックにも載っているんだとか。

しかもこのバックホーは、この「日本一の芋煮会」のために用意される新品だというから驚き。バックホーの潤滑油として、バターを使用しているため、安心して芋煮を食べることができます。醤油ベースのお出汁に牛肉を使うのが山形流。イベント以外の日でも、手ぶらでOKな芋煮セットを貸し出ししてくれるお店もあるので、ぜひお問い合わせの上、河原での芋煮を体験してみてください。

馬見ヶ崎川河川敷

秋の山形といえば
やっぱりこれ

